

国旗を掲げず県と摩擦

苦難と挑戦

県立大50年の歩み

③

2000年。県立大は入学式や卒業式で日の丸を掲げなかったことをめぐり、大いに揺れた。開学以来、式典で日の丸を掲げたことはなかった。1999年に国旗国歌法が制定。大学設置者の県は、この年の11月に開かれた「天皇陛下御在位十周年記念式典」に合わせ、日の丸を掲げるよう「配慮」を要請。しかし、当時大学の意思決定機関だった教授会は従来通り「掲げない」方針で一致した。「大学は国家のために学問をする所ではない。外国からの留学生もあり、日の丸だけを掲げることは世界に開かれるべき大学の使命に反すると考えた」

当時の学長で、福岡大名誉教授(憲法学)の石村善治(90)は今も強く思っている。それは「大学の自治」であり、これまでも主張してきた。むしろなぜ

日の丸問題



日の丸問題を振り返り「大学の原点を考えるきっかけにしてほしい」と語る石村氏
—福岡市内

これほど騒ぎになるのか、疑問にすら感じていた。「国旗に敬意を表することは常識以前の常識だ」とは高等教育機関として、「高等教育機関として、いかなるものか」。県議会は県立大の対応を問題視。文教委員会が大学を現地調査するまでに至った。県の要請を大学側は

「大学の自治への介入」と受け取り、県はそれを否定。両者の溝は埋まらず、議論は平行線をたどった。結果的に、石村が学長を務めている間に日の丸が掲げられることはなかった。

◆ この問題をきっかけに

県と県立大の関係は悪化。没交渉の状況が続くなど、ぎくしゃくした関係は長引いた。「このままでは大学の存廃も考えざるを得ない」という話まで持ち上がった。当時を知る関係者は県がいかに重要な問題として捉えていたか強調した。

石村が退任した直後の2002年4月の入学式では日の丸をスタンドに立てて掲げた。教授会の反発も受けた「折衷案」だった。県立大は05年に法人化され、運営の主体は教授会から法人に移った。騒動の根底には「県立大学とは何か」という在り方をめぐり、県と教授会の「価値観の相違」が横たわっていた。

現在の入学式と卒業式では、何事もなかったように壇上に日の丸が掲げられている。現状を石村に伝えると、こう語った。「大学として、日の丸を掲げる理由を考えておく必要がある。それがひいては、大学の原点や理念をあらためて考えるきっかけになるはずだ」

〓 文中敬称略〓
(後藤洋平)

〓 次回は8日に掲載します〓